

杉浦 幸二 *Koji Sugiura*

プロフィール



所属	東京大学大学院 農学生命科学研究科 応用動物科学専攻
職種	准教授
この研究室に入った年	2010年
出身地	愛知県
趣味	釣り
動物に例えると	いぬ

応用遺伝学研究室

Web サイト

<http://www.vm.a.u-tokyo.ac.jp/iden/mokuji.htm>



Lab Appl Genet

Animal Resource Sciences
The University of Tokyo

インタビュー

Q1. 現在の研究内容は

A1. 「哺乳類卵巣の発達メカニズム」として、特に、卵母細胞と、その発達を支える体細胞の相互作用について研究しています。具体的には、女性ホルモン、線維芽細胞増殖因子 (FGF)、細胞外分泌小胞 (エクソソーム) などに注目しています。

最近では、卵巣の雌性維持機構や加齢に伴う変化についても研究を進めています。

Q2. 研究者になったきっかけは

A2. もちろん、研究が好きで、科学の発展に貢献していきたいと思ったからです。

当時は博士課程を出て就職という進路は一般的ではなかったので、博士課程に進んだ時から研究者を目指していました。学位取得後は、妻の応援もあって、アメリカの The Jackson Laboratory での研究員として研究者生活を始めることができました。

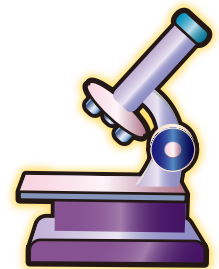
Q3. 研究者になってよかったことは

A3. 実験をしていると、予想外の結果が出ることも多々あります。しかしそこから新たな可能性、仮説を考えるとワクワクします。そこから新たなテーマを進めていって、興味深い知見を得られることもあり、楽しいですね。

当初のテーマとは異なる方向の研究でも自由に進めることができるのは、当研究室の内藤教授のご理解のおかげだと感謝しています。

Q4. なぜ今の研究室に

A4. 当研究室では主に卵母細胞や卵巣を対象として、発生工学・生殖生物学の研究を行っています。繁殖生物学に共通することですが、これらはその成果が次世代、未来へつながる、大変やりがいのある分野だと思っています。



Q5. 学生への接し方は

A5. 毎週ミーティングを行い、こまめに研究の進捗を確認しています。普段から学生と雑談などもよくして、研究などで問題があっても気軽に相談できる環境を作りたいと思っています。

Q6. 今、気になっていることなどは

A6. 修士課程を出て就職してしまう学生が多く、研究の引き継ぎの面で少し困っています。とはいえ、彼らも分野は違えど、これまで研究してきた経験を活かして、人の役に立つ研究や仕事を立派にやってくれると信じています。

Q7. 最後に一言、研究者を目指す学生にメッセージを

A7. 研究や実験は予想通りにうまくいくことばかりではありませんが、その分やりがいがあります。夢とやる気が大事！ **一緒にがんばりましょう！！**